

■通常事業評価シート【R5年度実施事業／生涯学習部郷土文化課による自己評価】

(単位：千円)

No.	事業名	総合計画での位置付け (個別目標)	事業の目的 (誰をどのようにするか)	事業の手段 (今年度の主な活動結果)	事業の目的達成に 近づいたか	今後の 方向性	事業費 (決算見込額)	人件費 (参考値)	コスト 合計	事業の課題	今後の改善ポイント	備考
1	郷土資料等展示事業	郷土の歴史や文化が引き継がれている	市内外からの来場者に対して、岸和田の歴史と文化を広く知つてもらうため、郷土資料等を一定のテーマに従って展示し、解説する。	年4回の企画展を開催。また、市民セミナーやカンカン等で出前展示を開催した。	4：大いに近づいた	継続	1,359	4,710	6,069	展示だけでなく、資料調査など業務が多岐にわたり、担当の負担が年々増加している。	人員の増加	
2	郷土文化普及事業	郷土の歴史や文化が引き継がれている	郷土の歴史や文化財への市民の関心を深めるため、普及・啓発活動を行う。	文化財の情報発信のために文化財説明板の設置。さらに歴史講座の開催や小学校への出前授業を実施。	4：大いに近づいた	継続	3,867	4,045	7,912	郷土の歴史や文化財をより一層発信する必要がある。	周知だけでなく、学校教育との連携を図っていく。	
3	濱田青陵賞事業	郷土の歴史や文化が引き継がれている	市民がより高度な学術文化に接する機会を提供するため、濱田青陵賞事業を企画運営する。	朝日新聞社と共に選考委員会を開催し、受賞者を決定。9月に授賞式と記念シンボジウムを開催した。また、授賞式と記念シンボジウムはYoutubeで動画配信している。	5：達成した	継続	2,657	1,468	4,125	事業自体の継続に課題がある。 朝日新聞社の事業継続。	事業を継続するために、事務局の負担になる選考方法の簡易化、事務局のマニュアル化を進める必要がある。	
4	岸和田市文化財保護基金積立事業	郷土の歴史や文化が引き継がれている	文化財の保護、維持管理等に要する経費に当てるため、岸和田市文化財保護基金を適正に管理する。	文化財の保護、維持管理等に要する経費に充当するため、岸和田市文化財保護基金を適正に管理した。	5：達成した	継続	6,314	73	6,387	基金使用について担当課が全く関わできない。	基金の使用用途について財政課だけで決定するのではなく、今後は本課との協議の上、使用用途を決定してもらいたい。	
5	発掘調査・史跡整備事業	郷土の歴史や文化が引き継がれている	埋蔵文化財の保存と活用を図るために、発掘調査を実施し、出土遺物等を整理する。	令和4年度より高石市との埋蔵文化財事務の広域化を実施し、埋蔵文化財の保存と活用を図った。	5：達成した	継続	2,693	6,142	8,835	埋蔵文化事務の今後も滞りなく進めしていく必要がある。	人材の確保	
6	文化財保護事業	郷土の歴史や文化が引き継がれている	貴重な郷土の文化財を後世に残すため、市内に所在する様々な文化財を保存・保全し、活用する。	国指定名勝八陣の庭の保存活用、国指定文化財所有者への補助金交付、指定文化財敷地の樹木伐採、除草などを行った。	4：大いに近づいた	継続	1,064	4,015	5,079	指定文化財敷地の樹木伐採、除草は町会の要望通りの面積ができるいない。	予算の増額、伐採面積の拡大が必要。	
7	文化財保存支援事業	郷土の歴史や文化が引き継がれている	貴重な文化財を後世に残すため、文化財の保存・保護活動を支援する。	文化財保存団体への活動支援を行った。	5：達成した	継続	5,249	2,264	7,513	文化財保存団体の構成員の減少、高齢化	文化財保護の意義を発信し、若い世代へと継承していく必要がある。	
8	自然資料館管理事業	人が緑と触れあっている	自然資料館の施設機能を保持するため、施設を適切に管理する。	年間入館者数2,1362名（3月24日まで：3館共通入場券は未確定のため除外）。公共施設等適正管理推進事業費を活用して照明器具をLED化するとともに、ふるさと寄附金活用事業により和式便座を洋式化した。	4：大いに近づいた	継続	52,723	12,555	65,278	改修工事のため約1ヵ月間臨時休館したが、年間入館者はコロナ前っぽく同レベルかそれ以上回る数になつた。利便性向上とコスト削減のための改修工事だったが、施設の老朽化に対応するための改修は今後も必要となる。	切れ目のない計画的な改修を実施していくことで、来館者が安心・安全・快適に利用できるような施設の維持に努める。	
9	自然資料館普及・展示事業	人が緑と触れあっている	郷土の自然の大切さを再認識し、保護・保全への市民の理解を深めるため、自然の資料や情報等を広く市民の利用に供するとともに、普及・啓発活動を行う。	企画展・特別展6回、講演会6回、野外観察会18回、室内実習会45回、出展7回実施	4：大いに近づいた	継続	5,866	18,787	24,653	展示や行事、講師派遣などの運用はほぼコロナ前に戻っており、実際の利用も質的な変化はあるものの、コロナ前と遜色のないレベルとなっている。しかしながら、さらなる利用者増のためにには、10年以上大きな変化がない常設展示室の更新が必要である。	オンラインでも引き続き活用しつつ、普及・教育や展示等の事業充実を図る。また、常設展示室の改修に向けた具体的な内容や財源確保策の検討を進める。	
10	郷土文化課管理事務事業	持続可能で信頼される行政になっている	課内・部内の円滑な運営を遂行するため、庶務全般を効率的に行う。	課内を円滑な運営を遂行するため、庶務全般を効率的に行つた。	5：達成した	継続	1,483	10,140	11,623	今後も課内を円滑な運営を遂行するため、庶務全般を効率的に行つ必要がある。	さらなる事務の効率化	
11	岸和田城天守閣耐震対策検討事業（他課への応援）	観光資源が活かされている	岸和田城を観光資源として保存していくため、今後のあり方について検討する	岸和田城天守閣耐震対策の業務職員として、文化庁並びに大阪府文化財保護課と協議を行つた。	5：達成した	その他	-	73	73		耐震化に向けての事業の進捗管理は、観光課が主管であるため。	